

港北ニュータウンにおける居住環境と犯罪不安感の関係について
 一 荏田東 1 丁目～3 丁目、荏田南 5 丁目を対象として一

21318026 鈴木 琴美
 指導教員 葉袋 奈美子 准教授

犯罪不安感 道路形態 駐車位置
 港北ニュータウン 緑道 居住地

1. 背景と目的

近年、犯罪件数は減少しており、平成 26 年の認知件数及び被害発生率は、いずれも 17 年と比べて大きく減少・低下している。しかし人々の犯罪不安感が高く、2012 年 7 月の治安に関する世論調査では、8 割以上の人が日本の治安が悪くなったと感じおり、犯罪件数は減少しているのに対して、犯罪の猟奇性やマスコミの報道等を理由に人々の犯罪不安感が高まっている。本研究は道路形態や駐車位置の違いが住民の安心感へどう影響を与えるのかを解明し、人々がより安心して暮らすための提案をする。

2. 犯罪不安感のある道路形態・駐車位置の予想

既往研究と目視調査から犯罪不安感に影響を与える要因を明らかにし、道路形態(図 1)や駐車位置において予想される安心・不安感の高い場所の特徴を分析した。道路形態は、v4 道路は車通り・人通りも多く、安心感が高いと考え、v5 道路はその逆で不安感が高くなると考えた。駐車位置は、家の横型は玄関が沿道側すぐに面している住宅が多く、人気を感じられ安心感が高くなり、玄関前型はその逆で不安感が高いと考えた。1 階型は 1 階に車庫が設置されている場合が多く、沿道からみると生活感が感じにくくなり、不安感が高くなると考えた。これらの推測をもとに対象地である荏田東 1～3 丁目、荏田南 5 丁目の全ての道を条件整理をし、6 枚の道を抽出した(図 2)。

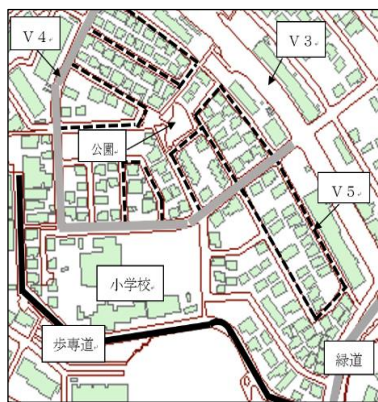


図 1：道路モデル

V2 道路：通過交通道路。
 広域センターに来るための道路
 V3 道路：通過交通を抑制したバス路線道路
 V4 道路：住宅地区に出入りする為だけの通過交通のない道路
 v5 道路：v4 を出て各宅地に入出りする。子供の遊び場となるような道路。

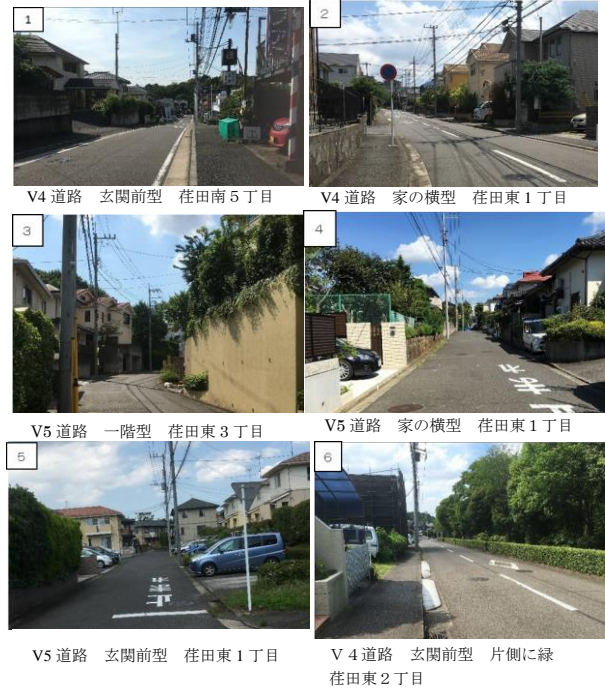


図 2：抽出した写真 1～6

3. 調査地域と調査方法

近隣センターの商店街と二つの団地を含み、南北・東西方向の歩行者専用道路をもつなど道路計画がなされている荏田東 1～3 丁目、荏田南 5 丁目を対象とし、設計時の生活行為が成立するとされた小中学校地区を調査対象地域とした。抽出した 6 枚の写真をもとにアンケート調査を行い、道路形態や駐車位置などの居住環境と安心感との関係を明らかにした。配布数 2452 部、配布・回収方法は町内会、団地管理組合に許可を得て配布・郵送回収とした。回収数は 648 部、回収率 28%であった。主な調査項目は「6 枚の写真に対する評価」「属性」等である。

4. 安心感・不安感の評価

「昼間安心して歩けるか」という問いに対してはどの写真も「あてはまる」という回答が高く、昼間は安心感が高いといえる(図 3)。「あてはまる」という回答は多い順に v4 家横、v4 玄関前、v5 家横、v5 玄関前、v4 玄関前(緑あり)、v5 一階型という順になった。道路形態は v4 道路、v5 道路の順に、駐車位置は家の横型、玄関前型、1

階型の順に安心感が高ということがいる。このことから道路形態と駐車位置とでは、道路形態による影響の方が大きいということがわかる。写真 6 は v4 道路だが、片側に緑があることで評価が下がっているため、緑は道路形態よりも人の不安感に影響を及ぼすということがいえる。

「夜安心して歩けるか」という問いに対してはどの写真も「あてはまらない」という回答が高く、昼に比べて夜は犯罪不安感が高いことが分かる(図 4)。「あてはまる」という回答は多い順に v4 家横、v5 家横、v4 玄関前、v5 玄関前、v4 玄関前緑、v5 一階型となり、昼間の評価と比べると夜は駐車位置による影響が大きいといえる。道路形態・駐車位置別でみると、昼間と同様 v4 道路、v5 道路の順に、家の横型、玄関前型、1 階型の順に安心感が高いという結果となった。

図 5:「夜安心して歩けるか」という問いに対して「あてはまる」と答えた人の割合

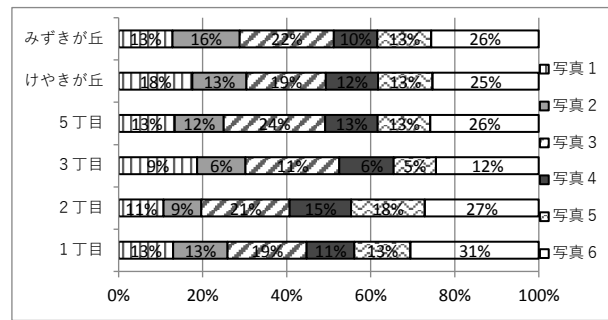


図 6:「夜安心して歩けるか」という問いに対して「あてはまらない」と答えた人の居住

6. まとめ

アンケート調査の結果から、安心感の評価は居住地に左右される傾向があるが、不安感の評価は居住地に左右されなかったことから、道路形態や駐車位置が不安感に大きな影響を与えているということがいえる。

安心感の高い道路形態は v4 道路 > v5 道路という順になり、人通りや見通しの良さが安心感に繋がるということがいえる。安心感の高い駐車位置は家の横型 > 玄関前型 > 1 階型という順になり、家の横型のような、沿道と玄関の距離を短くすることが人気・生活感を感じられ、安心感は高くなるということがいえる。夜は駐車位置が安心感の評価に大きな影響を与えていることから、駐車位置の計画は重要だと考える。

また、緑は道路形態、駐車位置よりも不安感に影響を及ぼすということがわかった。

以上のように、本研究では道路形態や駐車位置が安心感・不安感に大きな影響を与えているということが判明した。この結果は、住宅の設計、防犯パトロールや防犯カメラを設置の際に活かせる可能性があるといえる。

主な参考文献

「ニュータウン内緑道における犯罪不安の空間的要因」(雨宮護 横張真)(2011)、平成 27 年度『犯罪白書』第 5 編第一章、「治安に関する世論調査」(2012)(内閣府)、「通学路に面する建物内部の街路からの見通しと街路犯罪の不安との関係性について」(2013)(出口寛子 吉村英祐 小室瞳 海谷利樹)、「通学路に面する建物が通学児童の保護者に与える犯罪不安への影響について その 1: 建物の用途と犯罪不安箇所の関係性からの分析」(2014)(小室瞳 出口寛子 吉村英祐)、「既成市街地における防犯環境設計に関する研究—その 5 通学路における犯罪不安と空間特性—」(2010)(佐々木健人 土方吉雄 三浦金作)、「犯罪不安感と都市空間の関わり—港北ニュータウンの公園・緑道を対象として—」(2004 年)(竹花佳代 山家京子)、「港北ニュータウンにおけるグリーンマトリックスシステムの実態と評価—荏田東 1~3 丁目、荏田南 5 丁目を対象として—」(2015 年)(村松和香)

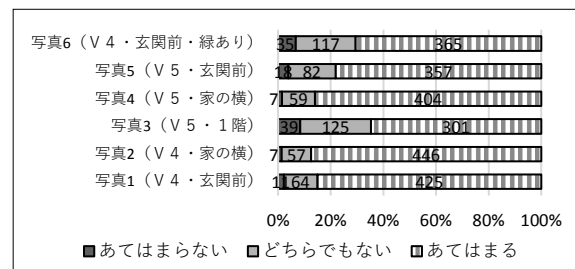


図 3: 昼間安心して歩けるか

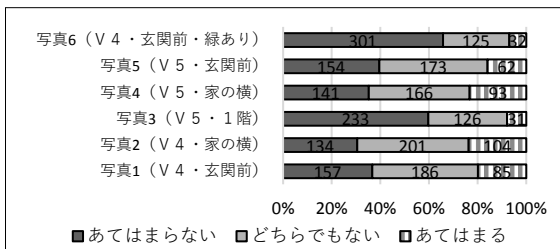


図 4: 夜安心して歩けるか

5. 居住地との関係

安心感の評価は、1・2 丁目は写真 2 (1 丁目) 写真 4 (1 丁目) が、3・5 丁目、みずきが丘・けやきが丘団地は写真 1 (5 丁目) の割合が高くなっているため、安心感の評価は居住地に影響を受けるといえる(図 5,)。しかし写真 6 (2 丁目) の 1・2 丁目での評価は低く、緑は居住地に左右されない不安要因であると言える。不安感の評価はどの地域も写真 3、写真 6 が高く、居住地による影響は見られなかった(図 6)。

